

あとがき

今回で6回目のグローバル教育セミナー（以下セミナー）となりました。昨年に引き続き、今回も「子どもの貧困」に焦点をあてました。基調講演をしていただいた、成田由香子氏（ACE（エース））は、宇都宮大学国際学部出身の学生です。卒業生が児童労働問題解決のために活動していることに対して大変嬉しく誇りに思いました。彼女のキャリアは、もちろん本人の努力や行動に支えられているところが大きいと思いますが、彼女のような学生を輩出したことが宇都宮大学国際学部の誇りであり、国際学部が目指すべき将来像でもあるのかもしれませんが。昨年度宇都宮大学を退官された、彼女の指導教官であった友松篤信教授もきっと喜んでおられるのではないかと思います。

また、丁度本セミナーの開催前12月10日、インドの児童労働問題の解決を目指して活動するNGO（グローバル・マーチ）のカイラシュ・サティヤルティ氏のノーベル平和賞の授賞式が同時受賞したパキスタンの女子学生マララ・ユスフザイさんと一緒に行われました。インドで働く子ども435万人、世界で1億6800万人の子どもが働かされています。サティヤルティ氏は、子どもを働かすのは犯罪であると考え、子どもの権利を保障する政治的意思の実現を目指しています。セミナーの開催前に、サティヤルティ氏のノーベル平和賞の授賞式が行われたことは、子どもの貧困問題が世界でいかに深刻かを広く伝えるよい機会となりました。海外だけでなく、この地元栃木にも母子家庭の子どもたちの貧困やホームレスの深刻な問題があり、この問題の解決のために支援活動を行う徳山篤さんの様なフードバンクの活動も知ることができました。

さらに、今回「ACE 作成コットンワークショップ」の地道な準備とVTRを作成してくれた、学生実行委員の廣瀬祥さん、佐藤静華さん、菰澤琴音さん、常田咲希さんの多大なる協力に感謝申し上げます。同時に、世界の貧困問題や食糧問題の解決のために活動する宇都宮大学の学生サークルTable For Twoの学生たちの活動報告も大変頼もしく思いました。是非卒業生の成田さんに続いて欲しいと思いました。本報告書をまとめる段階で、今回のセミナーの成功は、事務局の山澤明美さんはじめセミナー開催に協力してくれた皆さん全員の協力の成果であったことを改めて確認しました。改めて皆さんに感謝申し上げます。

今後も本セミナーでは、このような世界の問題を取り上げていきたいと考えています。

2015年3月 重田康博